

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100170		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホームたんぽぽ1階		
所在地	盛岡市稲荷町2-5		
自己評価作成日	平成28年2月4日	評価結果市町村受理日	平成28年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0390100170-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内		
訪問調査日	平成28年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地に立地、建物に日が差し込み冬場でも午前中だけ暖房を入れるだけで夕方まで温かく過ごすことが出来る。日が差し込む事と木がふんだんに使われており温かみある建物になっており床はクッション材を使用しております。玄関の飾り物や壁に絵を飾るなどし 季節感を感じて頂いております。 入居者様のドアには写真入りでそれぞれお花があしらえておりお部屋の目印になっております。 廊下には職員の写真を掲示し入居者様やご家族様に紹介しております。居室内もそれぞれ日が差し込み明るく過ごしやすく作られており備え付けのベッド、クローゼットも広く十分な収納スペースがあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市街地にあり、付近に国道も走り、交通量の多いところである。平成22年に開設された、比較的新しいホームで、株式会社が経営している。木造の温かさを感じさせる建物で日当たりも良く、清掃も行き届いており、清潔さが保たれている。付近は、大きな集合住宅や事務所などが多く、町内会は、若年層が減少しているなど、地域の協力を得る面での弱さも抱えているが、できるだけ町内会役員や民生委員等との連携確保に努力している。家族との協力関係も強く、受診や外出等の面で、支援を得ている。職員間の意思疎通も良く、意見提言等が出しやすい雰囲気となっている。限られた職員体制の中で、外部研修等にも積極的に派遣し、職員の資質やモチベーションの向上に配慮しており、ホーム全体で、より質の高いケアサービスの実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の場やケース会議の場で基本理念の確認、常に目が付く場所に掲示し周知徹底を図っております。また、1階2階で基本理念に基づき内容を職員の目に付きやすい場所に掲示しております。	自分らしく、自由に過ごせることを基本理念に定め、玄関近くの掲示板に掲げるとともに、理念を受けた形で行動目標を定め、常に理念に基づいたケアを行うよう心掛けている。会議の場でも確認し合うようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し回覧板等で地区の活動や行事等を把握し時間が合えば参加させて頂いたり回覧板に「たんぽぽ号」広報を回して頂き近隣の方へ活動内容を見て頂いております。イベント等に参加頂いたり古紙や旬の物を頂いたり、ご意見を頂いております。	近隣は事業所や集合住宅が多く、近所との付き合いを進めにくい環境にあるが、町内会に加入し、できるだけ行事に参加したり、ホームの運営にも協力を得て、地域との連携を深めるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方々には消防訓練に参加頂き消火活動や誘導に参加頂いております。また、前回開催致しました「認知症サポート」の講習会を今年も開催したいと考えております。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催時には施設の状況や行事の報告、年2回開催の避難訓練にも参加して頂き一緒に消防の講和を聞いていただいております。駐在所のお巡りさんの講話も2回目を開催致しました。	会議は2ヶ月に一回開催し、町内会の役員や民生委員、家族の代表等が出席し、意見交換している。議題に悩むこともあるが、事業所の報告を中心としながら、意見・提言をホームの運営に活かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定の相談、生保の方への支援相談、推進会議の議事録等を随時報告させて頂いております。また、盛岡市からの情報提供はメールで送られてきており協力関係は築けている。	市の担当者とは、介護認定をはじめ、生活保護の取り扱い相談など、常時連絡を取り合い、協力関係を維持している。日常のケアサービスに当たったの相談なども協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様には危険が伴わない限り自由にして頂いております。身体拘束に関する勉強会には職員に積極的に参加し園内での勉強会を開催し行動、言動の拘束を勉強しております。	身体拘束や言葉による拘束が無いよう、日頃から心掛けている。玄関については、ホーム周辺が交通量が多く、外出願望の強い利用者もいることから、安全上、日中も施錠している。継続して職員、家族の意見を聞くことにしている。	事業所の立地環境から、利用者の安全上、日中の施錠もやむを得ないところもあると思われるが、地域密着型のホームのあり方として適切かどうかの検討が進展することを期待したい。

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームたんぽぽ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は日々入居者の身体状況、様子を観察し事業所内で虐待が起きていないか注意を図っております。また、業務に入る事で職員の言動、行動を見て勉強会やケース会議で職員と介護方針を話し合う場を設けております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている入居者様がおられ弁護士の方からご意見を頂いております。また、現在申し立て中の方がおられたり今後の相談を受ける等、支援しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族から十分な聞き取りをさせて頂き入居時は重要事項、施設説明と時間を頂、ご理解、納得を頂いております。疑問点は誠意を持ち納得頂けるようにしております。また、解約の際も今後の事などを話し合いをさせて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族様代表に参加頂きご意見を頂いております。また、面会に来られたご家族様からご意見や要望をお聞きし職員が申し送りノートで周知しております。個別に時間を頂きご家族様とお話し合いを設ける場合もあります。	家族等の意見は、訪問時や電話等で、いつでも受け入れている。意見や要望があった場合は、必ず申し送りノートに記載し、職員全体で共有するとともに、改善策等について検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや全体会議、ケース会議の中で職員から意見を聞き内容に応じて本社に報告させて頂いております。	職員の意見、提言は日常の業務を通じ随時受け入れている。会議等の場で話し合うこともある。事業所で決定できないことは本社に報告している。全体に風通しの良い雰囲気となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が各々役割を持ちやりがいを持てる環境が作られている。管理者は勤務状況を把握しシフトを作成、有給や希望休み等、配慮されている。講習会、勉強会は勤務として扱いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会(スキルアップ)委員が主体になり園内・園外研修を調整し職員に行ってもらおう。戻られてから園内で「勉強会を開催し職員間で周知する。資格取得後は会社規定の手当が支給される。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の会議に参加、タイムリーな情報収集に努め他施設の職員と交流したり交換研修に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の申し込み時点からご本人の心配事や悩みを時間をかけ傾聴し職員へも周知しております。本人が安心して生活出来る様に何度でも傾聴しコミュニケーションを大事にしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にお話をお聞きし不安に感じている事や要望をなるべく細かくお聞きする。入居後の様子を報告し安心できるよう配慮しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族それぞれの要望を聞き身体状況を見極め他のサービスを紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の状況に応じ出来ることを引出し職員と共に生活されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者が日々生活されている様子を家族へ報告したり家族から要望を聞き、さまざまな状況で関わりを持ちながら支え合っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や病院を継続的に利用して頂いたりお盆にはご家族とお墓参りに外出、外泊出来るように支援しております。また、知人の方が面会に来訪しやすく環境を整えております。	利用者や友人、知人の高齢化ということもあり、馴染みの方々の来訪は、減少の傾向にあるが、家族や本人の意向を踏まえ、できるだけ面会の機会を保つよう努力している。家族による外出や外泊の機会も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で利用者同士関係を把握し食席の移動やレクへの声掛けも配慮しております。孤立されない様に職員が間に入り支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長引き退所された場合でもオムツを届けたり協力しております。また他施設へ転居された場合も様子を見に出掛けたり出来る限りの協力しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望や意向をなるべく多く聞けるように職員は努めております。1対1の場合に多く聞けることがあるので内容を会議や申し送りノートに記入し周知徹底しております。	食事や入浴の時など日常のケアを通じて、利用者寄り添い、傾聴の姿勢で思いや意向を把握するようにしている。必要なことは、申し送りノートに記載し、職員同士で状況を共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の様子を家族や担当されていたケアマネからお聞きし生活環境を把握、独居の場合は本人からの聞き取りで把握しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が話される言葉、状況等を観察(バイタル表)し職員間で把握しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の支援の中で常に様子等をモニタリングし現状を把握したうえでケース会議等で話し合い、それぞれ意見やアイデアを生かして個別援助計画を作成している。また、内容に応じ家族と話し合いを行っております。計画書は説明してお渡しするよう努めております。	介護計画は、本人の状態を基本とし、家族の説明等を参考にしてケース会議で検討し、作成している。6ヶ月ごとに見直しをしているが、日頃のケアを進める中で常に状況を把握し、現状に即したサービスに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、申し送りノートを毎日めを通し情報共有に努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診対応、入退院の対応等、柔軟に対応できるような人員を配置しております。また、家族からの要望に対応出来る様職員は心がけております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの方がから色々なご意見を伺ったり民生委員からボランティアの方を紹介していただいたり開始から地域の理髪店から来て頂きカットして頂いております。また地域の消防、交番の方々に理解と協力を頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、ご家族の意向に沿い対応しており職員が同行する場合や家族が援助している場合もありその際は、日々の状況を細かく報告しております。夜間の急変時は協力医の指示を受けたり救急搬送の対応をしております。また、専門医(歯科・皮膚科)等、往診を依頼しております。	従来のかかりつけ医を継続している利用者が多いが、往診を含め協力医や他の専門医に受診している方もあり、利用者の意向や状態を基にして受診支援をしている。家族付添による受診のケースも多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在であるが急変時は協力医の指示で適切な医療を受けられるように支援しております。また、緊急性がある時は救急車を要請しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は家族の負担を軽減するために洗濯物を回収したり必要品をお届けしております。また、園での生活状況や介護の仕方等を情報提供しております。早期に退院出来る様に医師からの説明に参加させて頂いております。退院後はサマリーに基づき対応しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書にて指針を作成し入居時にご家族へ説明しております。状態に応じ医師に終末期と診断された場合は家族、医師、職員を交え本人、家族にとって一番良い方向を検討しております。終末期の対応は家族と十分に相談しながら進めて行く事としております。	ホームで看取りを行った例はないが、指針を作成し、家族に取り組み方針を説明している。事業所内の体制等もあり、所内での看取りは困難な点が多く、できること、できないことの理解を家族から得ながら、今後の大切な課題として取り組んでいくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者、職員は救命講習を受講しております。また、緊急時は救急車要請の訓練、応急処置の外部研修にも参加、対応マニュアルも常に職員の目が行き届く箇所に掲示し確認できている。勉強会を開き職員間で実践力を身につけるようにしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回行っている避難訓練の他に自主訓練を行い全職員が避難方法を身につけるよう努めております。また、地域の避難場所の確認や実際に夜間、車椅子を使用したりし時間を計り場所の確認を行っております。	災害対策に力を入れており、定例的な避難訓練のほか、毎月、緊急連絡訓練等の自主訓練を行っている。訓練には、町内会や運営推進会議の委員も参加しており、また、緊急連絡網にもこれらの関係者が加入している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格、性格を尊重し言葉使いや声掛けを気を付けております。	難聴の利用者など、職員との意思疎通が難しいケースもあるが、できるだけ分かりやすい声掛けをしたり、一人ひとりの状態に合った対応に心掛け、個人の人格やプライバシーを尊重したケアの実践に努めている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームたんぽぽ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を表せるような環境を提供、なるべく何個かの中から選択できるようにしております。自己決定が困難な方には時間を置き理解して頂けるようにしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、職員側の都合が優先されてしまいますが基本のペースをなるべく崩さない様、利用者の体調を考慮し支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	開設当初より馴染みの理髪店(推進委員)が来てくださり会話を楽しみながら支援して頂いております。カット、毛染め等、おしゃれを楽しんでおります。また、洋服は家族が購入され持ってこられたり職員が購入しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感が感じられるように旬な食材を取り入れ盛り付けや食器なども工夫するように努めております。また、栄養面でもバランスのとれた食事になっております。片付けやゴマすり等、職員と一緒に準備しており外食の機会も設けております。	献立は、社内4事業所で共通になっているが、調理は職員が行っている。栄養バランスや個々人の咀嚼力に応じた調理がなされている。季節の食事や行事食、外食などを工夫し、食事を楽しむことができるように努力している。片付けなどの手伝いもなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状況を把握(食事量や水分摂取量等)体重増加の方へ低カロリーご飯を提供、嚥下状態が悪い方へはフードプロセッサーやトロミを使用したりご自身で召し上がれるような工夫をしております。水分摂取が少ない方へゼリーや栄養補助飲料を提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前のうがい、食後口腔ケアの声掛けや誘導、を実施、嚥下体操の支援や歯科医師の検診を実施、夜間帯は義歯を洗浄液に入れるなど。職員は外部研修に参加し口腔ケアの仕方を学んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個々に誘導、声掛けを行っております。また、医療機関との連携で薬を処方して頂き排便の確認をしております。	入居時から、おむつの使用を減らし、排泄の自立を促している。半数以上の方が自立している状況である。個々人の排泄チェック表に基づき、タイミングを見て、声掛けし誘導している。便秘の場合は、服薬による便通のタイミングにも気を遣っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操の提供、乳製品の提供、水分補給を工夫し提供しております。また、改善が見られない場合は医療機関と連携を取り便秘薬を処方して頂いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調に考慮、本人の意思を尊重、入浴の声掛けを行っております。入浴に抵抗がある利用者には声掛けを工夫し最低限の清潔保持を確保しております。入浴は週に2~3回	入浴嫌いの利用者もおり、対応に苦慮することが多いが、強制することなく誘導し、入浴を支援している。午後入浴時間であるが、利用者の望む時間に入れるように週2~3回は入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣をなるべく変えない様に自由に過ごして頂いております。食後は各々、居室でテレビを見たり食堂で談笑されたり過ごされております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は職員がいつでも確認できるようにしております。また、薬の変更された場合は配達して頂く薬剤師より注意事項を説明して頂いております。また、服薬時の本人確認も厳重に行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の生活歴を踏まえてお手伝いの場や得意な事をやって頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく外出の機会を増やし希望に添えるように支援しております。春先や初夏が多く近隣を散歩したり外でお茶を飲んだりチャグチャグ馬っこを見学したり玄武へ紅葉狩りに行ったりしております。	介護度が高い方等ADLの低下により、利用者からはあまり外出の希望がない為、冬期間は出掛けないが、春から夏にかけては天気の状態を観て、ドライブや近隣の散歩に出掛けている。チャグチャグ馬っこを見学したり、小岩井農場、高松の池で桜鑑賞、玄武へ紅葉狩りに出掛けている。又、受診のついでに家族と共に外出している方もいる。	交通量が多い等の立地環境や、職員体制にもよると思われるが、日常的な外出は、利用者の健康保持や地域密着型事業所の機能発揮等の面から大切であるので、習慣的な外出の増加に向け、検討の進展を期待したい。

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームたんぽぽ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方がご自身でお金を持ち数えたり見て安心されたり家族と相談しながら進めております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて対応しております。年賀はがきは毎年、家族は送っております。また、携帯電話を所持されている利用者もおりご家族とお話しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は木の温もりがあり明るい場所になっており季節に応じてクラフトを展示しております。	廊下や食堂などの共用空間は、明るくゆったりとしたスペースになっており、また、木造の柔らかさが伝わってくる。壁には手作りの飾り物が掛けてあり、和やかで温かい雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂での共有スペースは決められた場所に座る事が多いがレク等で集まる場所を工夫したり畳に腰かけ新聞を見たり談笑されたり自由に過ごされております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に家族へなるべく現在、使用されている物を持って来て頂くように伝え椅子やテーブル、タンス等、馴染みの物を準備しております。	居室には、使い慣れた筆筒やイス、馴染みの写真、自作の工芸品などが置かれている。また、掃除も行き届いており、清潔な環境となっている。居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所がわかりやすくするために張り紙したり居室には花飾りに写真を貼り表札にし自立した生活が送れるように工夫しております。		